

実習報告（関係機関実習）

地域連携の充実を目指した組織マネジメントの在り方を探る

松尾 洋明（教育経営探究コース：現職教員）

1. 探究実習のテーマと設定の理由

中央教育審議会答申（平成28年12月21日）では、より良い学校教育を通じてより良い社会を創るという目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められている資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、地域と学校の連携・協働の推進が重要であると述べられており、現任校においては、地域連携を学校の魅力の一つとする教育活動を実施している。しかし、現時点では、部活動単位で地域の催事に参加し地域連携を図るに留まっていることが多い。学校全体としての地域連携の目的が明確になっておらず、地域連携を実施していくための組織体制も確立されていない。地域連携を学校の魅力の一つとするためには、地域連携の目的の明確化や組織体制の整備が必要であると考えます。

そこで、佐賀県教育庁教育振興課では、地域連携の実施や学校の特色づくりのモデルになるような学校の取り組みについて調べていきたいと考えており、唯一無二の学校魅力化実践事業についての理解を深め、普通科高校の特色づくりについて考察することとした。唐津市教育委員会学校教育課では、地域連携が高校よりも盛んに行われていると思われる小中学校における地域連携の目的や実施方法等について理解を深めることで、現任校において取り組むべき地域連携の在り方が明確になり、地域連携が現任校の魅力の一つとして確立されるのではないかと考え、小中学校における教育活動、地域連携の取り組みについて理解を深め、高等学校における教育活動、地域連携の在り方について考察することとした。

2. 探究実習の研究目標

(1) 唐津市教育委員会学校教育課

唐津市教育委員会が、どのような組織体制でどのような役割分担をし、それらがどのように連携しながら組織運営を行っているのか、小中学校や地域社会とどのような関係性を持っておりどのような支援体制や連携を実施しているのか、ということについて理解を深めることと、小中学校における地域連携の目的や実施形態を知り、その中で生じている教育効果や課題について実態を探り、地域の高等学校の特色づくりをする際の一助とすることを目標とした。

(2) 佐賀県教育庁教育振興課

県教育委員会が掲げている「唯一無二の学校づくり」について、目的や取り組み内容等の理解を深め、「SAGA コラボレーション・スクール（以下SCSという）」指定校がどのような取り組みをし、その中でどのような成果や課題等があるのかについて探ることと、高等学校における地域連携の在り方についての理解を深め、現任校の地域連携の推進を図る組織体制の在り方について考えることを目標とした。

3. 探究実習の概要

実習は、前半10日間を唐津市教育委員会学校教育課で、後半10日間を佐賀県教育庁教育振興課で行った（表1）。

表 2 関係機関自習先 2 か所の主な実習内容

唐津市教育委員会 学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・唐津市教育委員会学校教育課の業務内容等についての講話 ・若手教員研修会, 外国語指導力向上研修会, 地区小中合同夏季研修会参加 ・学校訪問同行 (中学校 1 校)
佐賀県教育庁 教育振興課	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀県教育庁教育振興課の業務内容についての講話 ・SCS 情報交換会参加 (指定校 9 校の取組報告) ・SCS 指定校学校運営協議会訪問同行 (高校 2 校) ・SCS 指定校アドバイザー訪問同行 (高校 4 校)

4. 探究実習の成果と課題

(1) 唐津市教育委員会学校教育課

唐津市教育委員会学校教育課は、教職員人事係と指導係の 2 つの係に分かれており、それぞれが小中学校の教職員の服務監督と学校運営に関する支援事業の役割を担っており、課長・係長と指導主事の間での報告・連絡・相談体制や指示系統が確立されているということを理解することができた。また、唐津市の小中学校では、第一中、大志小、長松小の 3 校においてコミュニティ・スクールを導入し、それぞれの学校で年間 4、5 回の会議、第一中学校区で年間 3 回の会議を実施しており、会議の中で、子どもたちと活動を共にした地域住民の方々から高評価の意見が出ているということを知り、コミュニティ・スクールの有意性を確認することができた。さらに、小中学校連携は図られているが、高校との連携はできていないという現状がある。小中の連携に高校が加わり、小中高の連携を図り高校生が小中学校生にとって憧れの存在となることは、双方にとってメリットとなるのではないかと考えた。

(2) 佐賀県教育庁教育振興課

佐賀県教育庁教育振興課は、「唯一無二の学校づくり」、「学力向上」、「グローバル人材育成」の 3 つの担当に分かれて教育政策事業の推進が図られているという組織体制について理解することができた。唯一無二の学校魅力化実践事業における SCS 指定校 9 校は、それぞれの学校の特色や専門性を生かし、テーマ型コミュニティ・スクールの推進、「地域みらい留学」制度による県外生徒募集、YouTube チャンネルの開設、選択科目や学校設定科目の中での地域連携、学校運営協議会委員に地域住民・生徒代表・ベテラン教員・若手教員を加えた熟議、中学校・公民館・佐賀大学との協働、総合的な探究の時間での地域連携等の取組について知ることができた。また、他県の事例において、学校と地域が同じような熱量をもち、共通のビジョンをもつことによって学校と地域の協働による取組が行われていること、そして、学校に不足している人員や物、資金といった資源を地域から動かすことができていること等、学校と地域の共創により魅力化・活性化の推進が図られているということを知ることができとても参考になった。

(3) 次年度の学校変革試行実習に向けて

実習を通して、地域連携の充実を図るためにどのような取組をするのかについて熟議をすることも重要であるが、何のために、何を目指して取り組むのかといった地域連携の目的やビジョンについて共通認識をもつことの必要性を感じた。そのうえで、市町と高校との間には壁があり、連携・協力が図られていないという現状があるため、校内の組織体制の整備とともに学校運営協議会との連携体制づくりについても考えていく必要があると考えた。さらに、地域連携を継続した取組とするためには、担当職員や担当部署だけでなく全職員で情報を共有する場が必要であり、そのような学校内外の連携や協働が図られるような組織体制づくりをしていきたい。